

【教育目標】

互いに認め合いながら心豊かに生きる子どもの育成

【めざす園児像】

- ・いろいろなことに興味をもって、やってみようとする子ども
- ・感じたことや思いを共有し合える子ども

【経営方針】

- (1)心身ともに調和のとれた成長を促すため、基本的生活習慣の形成に努める。
- (2)幼児期の特性をふまえて、主体的な活動を促し、自立心を育む。
- (3)身近な自然を取り入れた保育活動を行い、豊かな感性を育む。
- (4)体を動かす楽しさや心地よさを味わわせる活動を日々継続して行う。
- (5)感じたことや思いをことば・行動・制作など、様々な方法で表現する活動を設ける。

【具体的目標】

- (1)一人一人の内面理解に努め、良さを認め、発達の特性に応じた指導と支援に努める。
- (2)自ら遊ぼう、活動しようとする意欲・態度を大切にしながら、友だちとの協同性を培う。
- (3)身近な自然を遊びや制作などに取り入れ、豊かな感性や表現力を育てる。
- (4)家庭・地域社会及び小学校との連携を密にし、円滑な接続を組織的に行う。

【領域別 指導の重点】

健康

- ・主体的に環境と関わり、自己表現しながら活動する喜びを味わわせる。
- ・いろいろな遊びを通して、身体諸機能の調和的な発達を促す。
- ・自分の身体を十分に動かし、進んで運動しようとする態度を養う。
- ・危険な場所、危険な遊び、災害時等の行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動する力を養う。

人間
関係

- ・集団生活の中で、教師や友だちに認められる経験をし、自分のよさや個性に気づかせる。
- ・友だちとの関りの中で、自分や相手のよさや個性に気づいていく体験を大切にする。
- ・異年齢・同年齢の友だちと積極的に関わりながら、喜びや悲しさを共感し合う機会を設ける。

環境

- ・身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだりしながら、それらを生活に取り入れようとする姿勢を育てる。
- ・自然に直接触れて生活し、そのよさや美しさ、不思議さに気づくことを大切にする。
- ・身近な事象を見たり扱ったりする中で、物の性質や数量、文字等に対する感覚を養う。

言葉

- ・相手にしてほしいことなど、言葉による伝え方や、相手の合意を得ることの必要性を経験させる。
- ・絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにする。
- ・言葉の様々な楽しさや美しさに気づき、イメージや言葉の感覚を豊かにする。
- ・したり、見たり、感じたり、考えたりしたことなどを自分なりに言葉で表現する機会を大切にする。
- ・自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わわせる。

表現

- ・身近な環境と関わりながら、不思議さやおもしろさ、美しさや優しさ強さを感じ、表現する機会を設ける。
- ・風や雨の音、草花の形や色など、自然の中にある音、形、色などについて、感じたことや考えたことなどを音や動きで表現したり、描いたり作ったりする活動を行う。
- ・木の枝や空き箱など、身近な素材を活用し、それらを活かして表現する活動を行う。
- ・音楽に親しみ、歌ったり、楽器演奏をしたりする活動を行う。